



市章

広報えびな

発行・海老名市役所・海老名市国分155／編集・秘書広報課／電話・31-2111 (代) / 〒243-04

世帯と人口

昭和59年8月1日

世帯 27,682世帯 (+56)

人口 89,889人 (+166)

男 46,203人 女 43,686人

やっぱり、夏は暑くなぐちやあ！

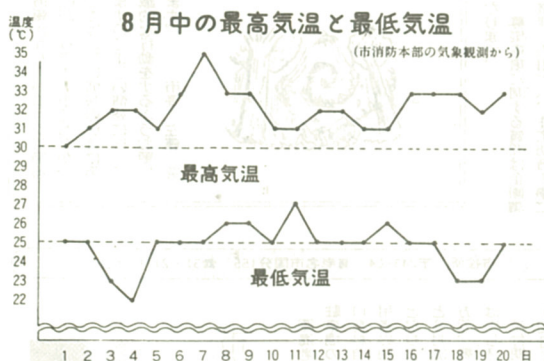
今年十七の小中学校でプール開放しましたが、連日満員の盛況、一日当たり約二百人の入場者がありました。九月一日の各学校の始業日には、真つ黒に日焼けした子供たちが勢ぞろいしたのでは…。



酷暑

8月中の最高気温と最低気温

(市消防本部の気象観測から)



「おそろいさいますね」「暑いが続きますねえ」という時候のあいさつに実感がこもる日が続きます。特に八月に入ってから連日三十度を超える酷暑が続きました(左のグラフ参照)。暑さの影響が各方面で話題になりましたが、市内の影響をいくつか調べてみました。

●農作物への影響は、暑さの影響より日照りの影響のほうが強かったようです。市消防本部の気象観測では、七月二十九日から八月十九日までの二十二日間、一時的な雨量はなし。日照りの影響は、相模原農業改良普及所では「陸稲は穂の形成に、サトイモは下葉が黄色くなり始める、秋物キャベツの定植遅れといった影響が、八月二十日現在の調べでありましたが、台風十号の影響による降雨でいすれも思っていたようです。この日照りが後一週間ほど続いたとしたら被害が大きくなったと思います」と話しており、小さな被害ですんだようです。

●清涼飲料水・アイスクリームの売れ行きは、問屋さんの話では「暑さが三十度を超えると人はアイスクリームなどの冷たいものを欲しがるといわれています。暑さ続きで、去年に比べアイスクリームの売れ行きが三〇%増、清涼飲料水は一部品切れになるといった具合です」と好調のようです。

●水道使用量・電力使用量は、いずれも七月の統計しかでていませんが、前年比で水道は六・三%増、電力は一三%増。ただし、これは暑さの影響とは一概にいえない。そうで、水道は五・六月にも増えており、電気はオリンピック中継や工場関係の景気も影響するそうです。

●冬の降雪、夏の酷暑、異常気象かと思えますが、お年寄りに聞くと、昔は海老名でも大雪が積もったし、この位の暑さは当たり前ではないかと話しており、そんなに心配しなくてもよいようです。



文化講演会「テレビと私」

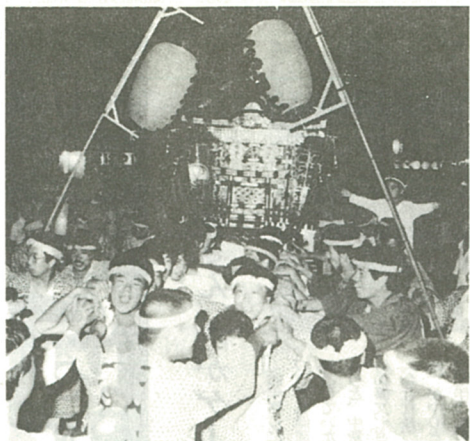
講師 森本 毅郎

10月20日(土) 午後2時～4時、市文化会館ホール ▷人員=1,100人先着順 ▷入場無料 ▷申し込み=住所、氏名、電話番号を明示して電話またはハガキで市立中央公民館(上郷476-2 ☎32・3231)

10万人の入出でにぎわう

第9回えびなふるさとまつりレポート

ふるさとの祭典えびなふるさとまつりが八月十八日、十九日の二日間、上郷の小山急グラウンドで開かれました。「心のふれあうふるさと」とを昭和五十一年から始まったこの催しも今年で九回目、天候にも恵まれ、延べ十万人の市民が参加し、ふるさとえびなを満喫しました。特に今年は、厚木基地の米軍人家族やホームステイで市内に滞在している米国人親子も益踊りに飛び入り参加するなど、国際色豊かなまつりとなりました。みこしに酔い、まつりに酔った二日間の模様を写真で再現してみました。また、このまつりを市広報モニターの音成秀子さんと大谷秀子さんにレポートいただきました。



ドッコイ、ドッコイ まつりの主役みこしも大小12基登場



どっちが強い？ (子供綱引き大会)



躍動美あふれる大谷中パントワラー



人気のミニSLもフル回転



青い目の人も益踊りに飛び入り参加
(米国カリフォルニア州からホームステイで市に滞在中のローズさん親子)

まつりは融合の場

はやしの音色に導かれ、えびなふるさとまつりが行われている小山急グラウンドを訪ねた。祭日にふさわしい晴天の中、誠意のこもった手作りの福祿コーナールームを始めとし、市内の土の香そのままだに野菜や果物が並び、各種模擬店も数多い。見物客は昔懐かしに竹馬などもあり、テレビヒーローショーや大人目を見張る中学生のバントワラーやドリルバンドなど催しも多岐に、若いものもその顔は輝き、楽しんでいました。

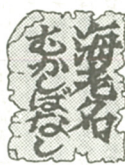
西の空があけぬ色に染まり、山がくっきりと姿を現わしたころ、十七日の屋台からは一斉に、元氣な子供たちの打つ腕勢のよい太鼓の音が、会場いっけいに響きわたる。今年は特に暑さがきついていたが、涼を求めて出かけてくる人が多かったようです。益踊り

モニターの目

涼を求めて

今年の天気は心配もなげ、ゆっくりに見ることが出来ました。暑さの中、車の誘導や会場内の水まきなど、まつりを盛り上げる陰の人たちのいることを感じたいけないと思えました。すっかり夏の風物詩となったふるさとまつり、この地しかりと根付いたまつりになることを思いながら、またにぎわいの残る会場を後にしました。

(市広報モニター 大谷秀子 園分台三丁目)



関東大震災と門沢橋

第97話

大正十二年九月一日の関東大震災は、本市では相模川沿岸の沖積地帯の被害が甚しく、門沢橋は中新田に次いで大きな被害をうけた。

地域内の洪水が水田に氾濫し、しよとすると右岸に震災記念碑(写真)が建てられているが、その碑文の後半に「此時門沢橋部落八世戸数百戸、二シテ内住家八十九、八之レ二附屬ノ建物及一社二寺ヲ全潰(かい)シ半潰二止マルモノ僅カニ三戸死者六名負傷十一名ヲ出ス」とその惨状を後世に伝えている。なお別に有馬村災

害調査表にこの地区の非住家(物置・灰屋・倉庫など)の倒壊家屋百七十一、半壊七十七、負傷者の内重傷一名とある。

道路は到る所崩壊し、その幅最大一メートルに及ぶところがあった。また所により水が噴き出して水たまりができ、臭いなど久しく浮んでいた所があったという。

大橋、世継橋を始め橋の多いこの地区の橋という橋は全川底に落下し、やむなく応急に丸太を渡し用を足すという有様だった。昔か村を守ってきた堤防も全部決壊、相模川自体の水も瞬時伏流水



相原甲子郎さんと震災記念碑

になつてしまつたのか、相模川がなくなつてつたといふ川べりの人が絶叫したという。

地震発生時刻は午前十一時五十八分、屋敷の早い農家の人たちは大に怪しみの最中だった。人災が起きたのは多くは、このためである。ある家ではお手伝いさんと来泊中の親類のおばあさんがくなられ、主親子が梁(はり)の内敷となつた。それを近所の人がちがキリン(ジャッキ)を持ってかけつけ、絶え間ない大きな余震におびやかされつようやく避難した二人を救出した。一方これとは逆に我が子を救助に屋敷に飛込み父子共に悲運に会つた方や、大山街道の通行者一命を失われたい人もあつたのである。

こうしたあたら不慮の死を遂げた人々もあつたのである。

以降は世間一般と同じであるが、その夜はどの家でも外へ寝た。真赤に焼けたたれた都会の夜空をながめながら……

みぞの大震災に出会つた人々の心はみな動揺していた。そへ流言、自警団組織、戒厳令布告と大地の動きに世も動いた。

(池田武治氏「国分」から寄稿されたもの)

下水道

アイ・ラブ・タウンのみちしるへ

9月10日第24回全国下水道促進デー